

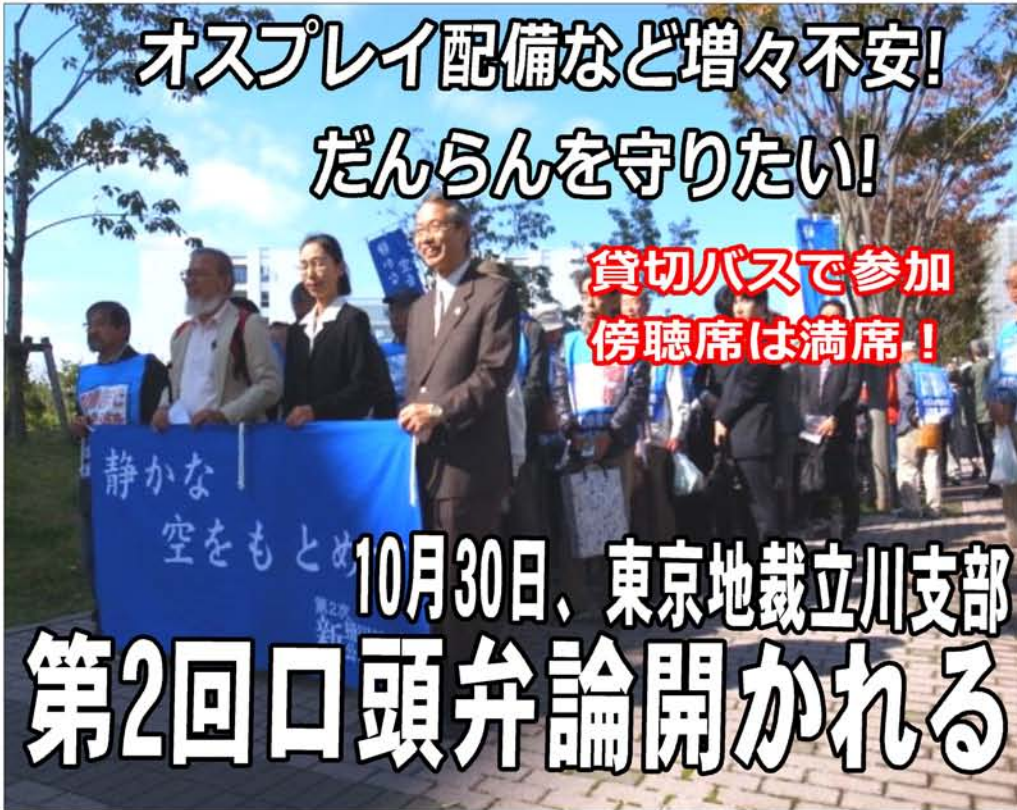
静かな空を
もとめて

昭島支部だより

第2次新横田基地公害訴訟
昭島支部 11月10日 第12号
発行責任者 永川勝則
編集責任者 奥村 博

オスプレイ配備など増々不安! だんらんを守りたい!

貸切バスで参加
傍聴席は満席!



10月30日、東京地裁立川支部 第2回口頭弁論開かれる

第2回口頭弁論が10月30日、東京地裁立川支部で行われました。基地北側の瑞穂町に住む大坪たづ子さんは「朝は騒音で起こされ、電話もテレビも聞こえなくなると。飛行回数が増え、オスプレイ配備の動きに不安が募る」

「引越してきて家の南側から突っ込むように飛来してくる横田の飛行機に驚いた。家族の団らんを守りたい」と訴えました。弁護団から3名が陳述しました。中杉弁護士は訴訟の概要を説明し

3度の提訴で主張は言い尽くされている。国は被害者いじめではなく率先して被害補償すべきであると主張しました。小池弁護士は、福生でも昭島でも昨年比で大幅に飛行回数が増え、とりわけ団らん時間帯の騒音が激しくなっている。近年パラシュート訓練等基地の性格が変化し、オスプレイ配備の動きなど危険性が増していると訴えました。中村弁護士は、国の主張に対する反論を行いました。国は過去の基地訴訟判決でも否定された主張を蒸し返しているだけで、裁判への姿勢が問われます。

オスプレイ飛行実態 被害を学ぶ

昭和会館で学習会

米軍横田基地が配備先候補とされている問題を受け、横田訴訟の2つ原告団が主催の「オスプレイの飛行実態や被害について学ぶ学習交流会」が10月27日、昭和会館で開かれ、原告団や市民ら107名が熱心に耳を傾けました。オスプレイの飛行訓練の拠点となっている岩手県、国基地と、配備されている普天間基地の爆音訴訟団から状況報告をアロジエクターを通して説明があり、「連帯して配備阻止に向けて闘って行こう」と呼びかけられました。直ちに署名活動を開始する提議がされました。

署名活動開始

全力で集めましょう

横田基地へのCV22オスプレイ配備計画の撤回、MV22オスプレイを飛来させない署名

第9次横田基地公害原告団と共同した署名活動を始めています。日本政府はアメリカ政府に対し直ちに横田基地配備計画を撤回するよう求め、MV22オスプレイの飛来計画についても断念させるよう求める内容です。

第1次集約	12月10日
第2次集約	2014年1月10日

次回弁論は、2014年2月12日(水)午前11時より